

長崎県立大学 学長

太田博道

Ohta Hiromichi



我が国は、アジアの中ではもとより、世界の国々と比較しても、高齢化が最も進んでいる国であります。持続可能な社会保障と医療体制の構築は喫緊の課題であるのみならず、我が国のやり方を世界が注目しております。

なかでも長崎県は、病院・診療所の数や病床数が全国で最も多い県の1つであることから、在宅医療の普及が重要な課題となっております。この課題の解決のためには、それを支える人材の育成や環境の整備が極めて重要であることは言うまでもありません。

本学は、長崎大学、長崎国際大学と共に、薬剤師と看護職の養成課程を持つ大学の1つとして、「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」事業に参加し、平成21年度から、その目的達成のために努力して参りました。この事業は文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム（戦略GP）」の一環として行われたものです。3大学に加えて、長崎県、長崎県薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、長崎県看護協会および長崎県医師会と連携して「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」として結集し、推進してきたものであります。医療現場で患者さんが必要としている様々なケアに対応できる、臨床能力のオンデマンド型総合実践力の育成に努力して参りました。

本学の学生は、他大学の学生の皆さんと共に、連続講義の受講や早期体験プログラムによる医療機関での実習、シンポジウムへの参加等を通して、貴重な体験をさせていただきました。特にキャンパスを出て、他大学の学生の皆さんと共に学ぶこと、共に働くことは大変貴重な刺激になったと思います。今後、この3年間の実績を基に、これまでの試みを継続的なプログラムとして教育・研究の中に活かすと共に、地域医療の現場で活躍できる人材の育成に一層努力して参る所存です。

太田博道

